

第1章

各務原市の水と緑

1. 各務原市の水と緑

(1) 各務原市の水と緑の特色

北部の美濃山地と南部の木曾川が、各務原市の豊かな自然の骨格を形成している。

【美濃山地】

北部には美濃山地が分布している。丘陵地・谷戸から構成される里山の緑で、植物地理学上、東海丘陵要素と呼ばれるシデコブシなどの植物が生育するなど、稀少な自然環境が分布している。



シデコブシの花

【木曾川】

木曾川は、本市と愛知県との境を流れている。鵜沼付近の木曾川は、飛騨木曾川国定公園に指定され、日本ラインと称される景勝地である。河畔にそびえる伊木山、城山、犬山城等とあいまって雄大な景観を形成している。また、木曾三川公園として雄大な自然環境を有している。川島地区は木曾川の川中島で自然に恵まれ、東海地方でも有数の野鳥の楽園である。木曾川は名古屋大都市圏の緑の構造となる広域的な緑地軸を形成している。



木曾川・日本ライン

各務原台地や境川周辺の田園と伊木山や三井山等の独立峰が、各務原の原風景となる田園景観を形成している。

【各務原台地、境川低位台地の平坦地】

各務原台地には、特産のにんじん畑などが広がっている。新境川やその支流に沿った低地には水田が広がり、良好な田園風景を形成している。



にんじん畑の風景

【ふるさとの風景を特色づける独立峰】

本市における特徴的な地形として、伊木山や三井山等の独立峰があげられる。独立峰は市内の広い範囲で眺めることができ、特色ある本市の景観を形成するとともに、緑の視認性を高めている。



ランドマークとなる三井山

歴史や農文化と一体となってふるさとを特色づける風景が残されている。

【鎮守の森や屋敷林】

鎮守の森や屋敷林は、市街地では貴重な緑として、田園地域では周囲の景観と一体となって、ふるさとの風景を形づくっている。

【河川やため池】

北部山地を水源とする小川やため池は、豊かな生態系を支えるとともに、地下水を涵養する重要な役割がある。

新境川や大安寺川は、北部山地を水源とし、田園地域から市街地を流れ、木曾川に注いでいる。桜並木が植えられた区間では市街地に豊かなうるおいをもたらしている。

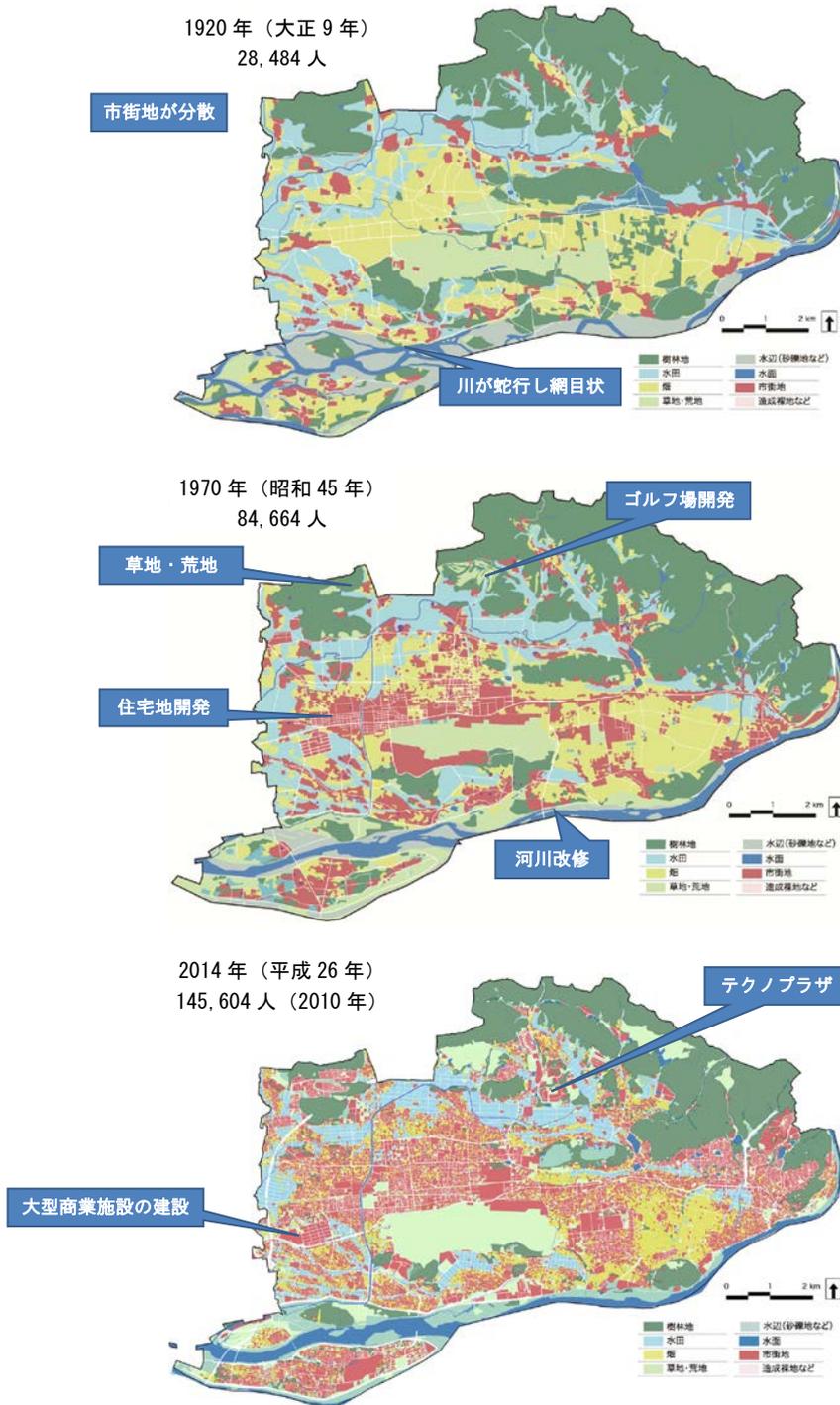


翠池

(2) 水と緑の変遷

1920年（大正9年）と1970年（昭和45年）を比べると、人口は約3倍に増加し、市中央部を東西に横断するように整備された鉄道や国道沿いに市街地が形成されてきた。

高度経済成長期には、住宅地やゴルフ場の開発、河川改修が行われ、近年は北部の丘陵地で研究開発拠点や大型商業施設の建設が進められてきた。



資料：国勢調査

※平成16年以前の人口は、旧川島町の人口を含む

図 各務原市の土地利用の変遷